



ただ、歯科健診の受診

薬剤師は口腔ケアに関与を 健康サポートの役割大きく

慶應義塾大学薬学部教授 山浦克典氏に聞く

口腔疾患の予防に向けた薬局薬剤師による口腔ケアの取り組みに注目が集まっている。歯周病が糖尿病など様々な全身疾患の原因になっていること、歯科医師の約9割が薬剤に起因する口腔乾燥を経験しているとの調査結果もある。こうした中、薬剤による口腔症状の説明やケア用品の提案など、健康サポートを行う薬局薬剤師の果たす役割は大きいと考えられている。口腔ケアへの取り組みには歯科医師からの期待も高く、昨年には歯科医師をはじめ職種で構成する「日本口腔ケア学会」に、薬剤師部会が新たに立ち上げられ、歯科医師との連携に向けた動きが加速している。同部会の部会長に就任した山浦克典氏(慶應義塾大学薬学部教授・附属薬局長)に、薬剤師が口腔ケアに取り組み意義や今後の展望などを聞いた。

歯科医から期待 連携加速へ

代表的な口腔疾患である歯周病は、糖尿病、脳梗塞、虚血性心疾患、誤嚥性肺炎、認知症といった様々な全身疾患の増悪因子とされ、わが国の歯周病患者は増加の一途をたどっている。

9割が患者が服用中の薬剤が原因と疑われる症状を経験しており、口腔乾燥や歯肉肥厚の頻度が高いことが分かった。歯科

薬学教育での充実必要

コアカリ追記で追い風も

厚生労働省の統計によると、患者数は高血圧性疾患に次いで第2位に上るが、口腔ケアによって歯周病や誤嚥性肺炎などが予防できるこのエビデンスも積み重なってきている。

健康サポートの取り組みを進める薬局薬剤師にとっても、未病や疾病予防は大きな役割でありながら、口腔ケアによる口腔疾患予防の取り組みは十分に行われてこなかった。

薬学教育における課題もある。山浦氏は、「これまで取り組んでこなかった口腔フィジカルアセスメントは、本来薬剤師が取り組むべき部分と

対物から対人へと薬剤師業務が大きく変化し、在宅医療での嚥下障害、口腔乾燥への対応や抗がん剤、ビスホスホネート製剤など、口腔関連の副作用に注意が必要なが増加する中、現行の薬学教育モデル・コアカリキュラムでは口腔に関する具体的な記述はないのが現状。山浦氏は、薬学教育における口腔領域の充実を訴える。

現在、改訂作業が進められているコアカリの素案では、歯科治療の知識と学習項目も追加すべきとの意見も踏まえ、「セ

山浦氏は「今後、国民の予防意識が高まっていくだろうし、薬局もセルフケアに力を入れていく必要がある。そうした中で学会の認定資格は重要な役割を担うと考えている。口腔関連の知識と技能を習得することで、定期的な健康イベントも開催できる。それを健康サポート薬局の取得につなげてほしい」と話す。

「薬剤師が原因の口腔乾燥に悩んでいる患者さんに代替薬を提案できるし、ケアを行うトイレタリー用品を適切に選択したり、唾液腺のマッサージも指導できる。薬剤師ができることは多い」と実感する。

英国の薬局薬剤師を対象にした調査では、9割以上が口腔の健康増進は薬局薬剤師の役割と回答。消費者が行う主な口腔関連アドバイスと対応の自信を尋ねたところ、口内炎に対して「十分な知識があり対応に自信がある」との回答が93.0%、口腔乾燥に対しては91.2%と高い知識を持つっており、約7割が生

一方、歯科医師の8割は薬剤師の口腔領域への取り組みに期待しているとの調査結果もあり、このギャップを埋めるためにも、薬剤師が口腔疾患や口腔ケアに関する知識、技能を習得する必要がうかがえる。

山浦氏は「薬剤師の反応は決して悪くない。口腔ケアに取り組むべきと考えているが、自信がない」とのことだった。認定試験や研修会を通じて周知をしていきたい」と意欲を示す。

山浦氏が歯科医を対象に行った調査では、約

山浦氏が「多職種チームの一員として薬剤師が役割を果たすためには、口腔フィジカルアセスメントの知識などが重要になってくる。学会の研

山浦氏は「今後、国民の予防意識が高まっていくだろうし、薬局もセルフケアに力を入れていく必要がある。そうした中で学会の認定資格は重要な役割を担うと考えている。口腔関連の知識と技能を習得することで、定期的な健康イベントも開催できる。それを健康サポート薬局の取得につなげてほしい」と話す。

山浦氏は「今後、国民の予防意識が高まっていくだろうし、薬局もセルフケアに力を入れていく必要がある。そうした中で学会の認定資格は重要な役割を担うと考えている。口腔関連の知識と技能を習得することで、定期的な健康イベントも開催できる。それを健康サポート薬局の取得につなげてほしい」と話す。

山浦氏は「今後、国民の予防意識が高まっていくだろうし、薬局もセルフケアに力を入れていく必要がある。そうした中で学会の認定資格は重要な役割を担うと考えている。口腔関連の知識と技能を習得することで、定期的な健康イベントも開催できる。それを健康サポート薬局の取得につなげてほしい」と話す。

山浦氏は「今後、国民の予防意識が高まっていくだろうし、薬局もセルフケアに力を入れていく必要がある。そうした中で学会の認定資格は重要な役割を担うと考えている。口腔関連の知識と技能を習得することで、定期的な健康イベントも開催できる。それを健康サポート薬局の取得につなげてほしい」と話す。

薬事衛生六法 2022

医薬品医療機器等法及び関係政省令、告示を中心に薬剤師法、毒劇、麻薬、医療保険、保健医療、食品・家庭用品、など薬事・医療・衛生関係法令を幅広く収載した法律書。

◇2021年8月施行の改正医薬品医療機器等法のほか、収載法令をアップデート【内容：2022年2月8日現在】

- ・薬局の法律順守、許可更新、新規開設に“最新版”の備えが大切です。
- ・各種製造業や販売業（医薬品、医療機器、化粧品、医薬部外品、食品等）をはじめ、官公庁などにおける条文確認や法律理解に役立ちます。
- ・薬科大学、薬学部の「薬事関係法規」のテキストや参考書にも活用されています。

B5判変型／約2,000頁
定価5,170円(本体4,700円+税10%)

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ(<https://yakuji-shop.jp/>)または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。